

私の留学経験 Q&A

中本裕士

1. 留学の期間と施設

2000年06月-2000年09月 ミシガン大

2000年10月-2002年09月 ジョンズホプキンス大

2. 留学でどんな研究を行ったのか？

ミシガン大およびジョンズホプキンス大の前半は、臨床画像として保存されている FDG-PET の後方視的な解析、ジョンズホプキンス大の後半は一体型 PET/CT が導入されたことから、その基礎的な検討、および動物を使った基礎的実験に携わりました。いろいろな先生方と様々なことを行いましたが、思い入れのある研究のひとつは、PET/CT の CT で造影を行い、造影 CT を吸収補正用のデータとして用いた場合に、PET 画像にどのような変化が生じるか明らかにするものでした。ファントム実験のみならず、in vivo の実験としてイヌに FDG を投与、麻酔をかけて、単純 CT、造影 CT の動脈相、平衡相など何相かの CT を撮り、それぞれの CT を利用して PET 画像にどれくらい定量値に変化が生じるのか検討したことは、放射線科医と核医学科医の両者の視点で楽しんだ研究の一つでした。

3. 留学をしようと思ったのはいつか？

自分の人生の過程に「留学」の可能性を意識したのは大学院に入った頃です。私が大学に戻る時に入れ違いで大学院を卒業された先輩の鳥塚達郎先生がミシガン大への留学が始まるということで、大学院を卒業すると海外で研究生活が始まるものと漠然と感じていました。

4. どのように留学先を選んだか？

鳥塚先生に続いて、東達也先生が同じ領域を専門としてミシガン大に留学していたため、その流れで私も Dr. Richard L. Wahl のいるミシガン大にとあっさり決めました。

5. 留学前に苦労したことは？

留学を予定した 2000 年はボスの異動が重なったため、自分の留学手続きがまったく進まず、本当に留学に行けるのか不安だったことです。

6. 留学中に苦労したこと、逆に楽しかったことは？

留学前には、ボスの異動にあたりポストのことは後回しになりかねず、研究を含め何もできない可能性があると聞いていました。実際、ジョンズホプキンス大に移ってからしばらくの間は、実験室には実験用の器材が山積み状態で、何ができるという状況でもなく焦りました。何も残らないのはよろしくないと思い、毎朝 7:30 スタートの臨床のカンファレンスは必ず出席していました。一方、PET/CT が導入されると、この画像診断装置を使って明らかにしたいことがいろいろと浮かび、臨

床で行ってきた形態画像診断と研究で行ってきた機能/代謝画像診断が融合することで新たな画像診断の世界が開ける喜びを感じました。

7. アパートの決定、自家用車の購入、Social security number (SS#) の取得、銀行口座の開設などの留學生活の準備は問題なかったか？

当時のミシガン大には、東達也先生、北大から中駄邦博先生が留學されていて、ラボには秘書業務を手際よく行ってくれるマネージャーの方がおられたため、住むところや車は決定に従うだけで大変助かりました。また SS#、銀行口座の開設などもマネージャーの方が必要なところを車で回ってくれて、必要な事務作業は留學の初日で効率的に完了しました。ボルチモアのアパートはひとりで考えざるを得なくなり、留學者を検索していたところ、まず麻酔科の広田喜一先生がそれまで面識のなかった私に親切にホプキンス事情を教えてください、さらに同級生の赤尾昌治先生がボルチモアに留學しているとわかり、アパートの手配をお願いできたことで、スムーズに留學生活が始まりました。

8. 家族はどのように連れて行った？

長女が 2000 年 6 月に生まれたこと、ボスの異動の関係で 10 月からボルチモアに移る可能性があったことから、ミシガン大の 3 ヶ月は単身赴任、ボルチモアの 2 年間は家族 4 人で暮らしました。長男は preschool として Woodbrrok、Bryn Mawr に通うことになり、車で学校に送っていくと到着するや喜んで駆け込んでいくほどに楽しかったようです。週末は様々なモールを訪れ、夏休みにはニューヨークやシカゴを観光しました。またトロントで学会があったときには、ナイアガラの滝とあわせて家族旅行を楽しみました。

9. 治安について

ミシガン大のあるアナーバーは学園都市で、治安はかなり良かったです。3 ヶ月しか滞在していませんが、身近なところでの犯罪の話はまったく聞きませんでした。一方、ボルチモアは全米でも有数の治安の悪い街と言われていましたが、個人的には常識に基づいて生活する中で危ない経験はなかったです。大学内、観光地、住居およびショッピングモール、公園などは日常的に平和でした。ただ私が一時帰国しているときに、いつも通っている大学病院内の一区画の道で事件があったそうです。自動車泥棒が警官の制止を振り切って逃走を図ったため、警官が犯人に対して発砲、横にある ER(救急治療室)送りになった、とのこと。

10. 心に残るエピソード

いろいろありますので、興味のある方に直接お話しさせていただきます。

11. 留學について皆さんに伝えたいこと

留學については経験者が様々な意見を持っており、また実際に留學となった場合にイメージ通りになるのか、異なるものになるのかわかりません。が、これは留學に限らず、人生そのものにも当てはまるかと思えます。楽しいこと、苦しいこと、あわせて大いに楽しんでください。



写真1. Ann Arbor から Baltimore に引っ越す最後の夜。ホテルのチェックアウト後にもう1泊する必要が生じ、ボスの家に泊まることになった。



写真2. 2001年6月、全米で商用機第1号として導入された複合型PET/CT装置。付随するCTの検出器列は4列であった。



写真3. 研究室の若者2人を自宅の夕食に招いたときの一コマ。子供たちとともに。



写真4. ポルチモアで住んでいたアパート。2000年当時(左)と2018年(右)。留学当時は足の高さまで全面ガラス張りだったが(矢印)、現在は上側だけがガラスの作りになっている。レンガなど、アパートの雰囲気は今も昔も変わらない。